

ほろ酔いインタビュー●佐佐木幸綱交遊録●

2018・12・22 於・佐佐木郎

〈第15回〉一九八二年前後の評論の時代、「心の花」一〇〇〇号のころ

佐佐木幸綱＋高山邦男・墨君剛仁・加古陽・奥田亡羊・森屋めぐみ・清水あかね・犬飼亮介

▽名古屋の犬飼亮介さんが初参加

高山 今年も年末恒例のほろ酔いインタビューを始めます。今回のメンバーは黒岩、加古、奥田、高山の四人に加えて、森屋めぐみさん、そして初参加の清水あかねさんです。いつものように佐佐木朋子さんに大変お世話になります。年表は谷岡亜紀さん、大口玲子さんののを使います。テ―

プ起こしは吉田瞳さんです。

今回は特別ゲストとして、名古屋歌会の犬飼亮介さんが参加されます。その経緯についてお話しします。全国大会などでは地方の会員の方から「東京の人はいつも幸綱先生からお話が聞けて羨ましい」と言われます。確かに、東京歌会の二次会に先生は必ず来てくださって、いろいろなお話をしてくださいます。これだけの人数で聴いて

いるだけではもったいない、そんな話を全国の会員に共有してもらったらいんじゃないかということが、まず一つ。それと、何年か後、あるいは百年後でもいいですが、先生のお話が雑誌にちゃんと残っていれば、後の会員の資料として役に立つのではないかということからです。しかし、一番大事なのは読み物として楽しいものにしたということ、